

## 朗読文

伊豆は海がいい。が、山もいい。伊豆は大小の火山が集合して盛り上がった半島で、その分、清らかな流れを育み、野趣に富んだ溪谷を生み、方々に美しい滝をかけています。また温暖な気候とあいまって山道、谷間はどこも緑濃く、風がさわやかです。そんな伊豆半島を縦断する峠の道が天城です。峠の標高の最も高いところに天城トンネルを掘り、山稜は分水嶺をなして、本谷川と河津川を西と東の海に落としています。両側にはいくつもの滝がかかり天城峠の散策を楽しく、趣き深くしているのです。

天城峠を抜けるには、例えば河津川の河口か下川街道から入ると、巨大なループ橋を経て河津七滝に出ます。このあたりからは幾筋もの道があり、多くは遊歩道として整備され、紀行を自在につつがなく楽しめるように工夫されています。この七滝の名称は、その昔花嫁に襲いかかろうとする七頭七尾のおろちに七つの樽に酒を満たして飲ませ、十分に酔わせて眠らせたのは万次郎、万三郎の兄弟。天城峠の主峰をなす二つの山岳です。

七滝には、バス停を中心にみやげ店や温泉旅館が軒を並べ、あるいは点在しています。ここではまず溪谷を降りた大滝を見物します。その名にふさわしく、ごうごうと水を落とす大きな滝の迫力は、胸の奥まで痛快な気分にしてくれ、また滝壺付近には滝を真下から望める露天風呂が豊富な湯をたたえています。バス停の道路に戻り、次は七滝、河津川を上流に歩きます。すぐに出会滝、カニ滝に行きあい、さらに行くくと初景滝が右に見えてきます。この滝壺に踊り子のブロンズ像があり、記念写真の絶好のポイントになっています。ここから先は道も狭く足元も悪くなりますが、蛇滝、エビ滝と進むうちに溪谷らしい風情を見せ、ついに最奥の釜滝に出ます。さすがにここまで来て見る滝の様子は幽谷の気配濃厚で、ほれぼれとした気分が味わえます。